

小 松 島
ステーションパーク

「たぬき広場と
市立図書館」

施 設 改 修
基 本 計 画

令和5年3月
小松島市

SUSTAINABLE GOALS
DEVELOPMENT



目次

1. 背景と目的	1
2. 前提条件の整理	2
2-1. 現地状況の概要・周辺地域における計画対象地の位置づけ	2
2-2. 周辺地域における計画対象地の位置づけ	6
2-3. 上位関連計画・各種関連情報の整理	7
2-4. 基本構想に基づく計画条件の整理	10
2-5. 整備に向けた課題整理	12
3. 施設改修の基本計画	15
3-1. 基本方針	15
3-2. 改修範囲	16
3-3. アクセス・動線・管理範囲	21
3-4. 施設使用と空間構成イメージ	23
3-5. 利用者の想定	28
3-6. 整備水準	29
3-7. 管理運営の方針	31
4. 事業について	32
4-1. 事業手法・事業スケジュール	32
4-2. 改修基本計画内容に基づく概算工事費	34
5. 改修基本計画図	35
5-1. 基本計画－外構・ためき広場と図書館の接続計画平面図	35
5-2. 基本計画－外構・ためき広場	36
5-3. 基本計画－図書館1F 平面図	37
5-4. 基本計画－図書館2F 平面図	38
5-5. 基本計画－図書館3F 平面図	39
5-6. 基本計画－その他・補足説明資料	40

1. 背景と目的

本市は、豊かな自然環境と四国屈指の天然の良港・小松島港を中心に港湾都市として発展してきましたが、時代の変遷とともに人の流れも変わり、中心市街地の再活性化が必要となりました。そこで国鉄小松島線の小松島駅跡地に、ためき広場や生涯学習センター市立図書館などを配した「小松島ステーションパーク」を平成4年に整備することで、市民の憩いの場として親しまれるようになりました。

しかし、このステーションパークも開設から約 30 年が経過し、特に図書館においては施設の老朽化が進んでいます。また公共施設に求められる役割も時代とともに移り変わり、現在の施設では市民のニーズに対応しきれなくなってきました。

今後、急速に進む少子高齢化・人口減少社会のなかで持続可能な都市を維持するためには、市民にとっての魅力ある街づくりを再度検討することが必要であり、本市では第6次総合計画(後期計画)においてにぎわいの創出や公共空間を活かした憩いの場の創出を施策として掲げています。また「人々が集い交流しにぎわいと憩いをつなぐみなとまち」の実現に向け、ステーションパークが配されている本港地区と中心市街地の活性化を目的とした基本構想戦略も取りまとめました。

小松島ステーションパーク「ためき広場と市立図書館」施設改修の基本計画は、これらの背景を踏まえ、公園と図書館の一体化を進めることで、子育て世代が集まり交流しやすい環境を整え、訪れる人に癒しと憩いの空間を提供することを目的としたものです。



2. 前提条件の整理

2-1. 現地状況の概要・周辺地域における計画対象地の位置づけ

名称	小松島ステーションパークたぬき広場		
位置	徳島県小松島市小松島町字北開ほか		
建築年	竣工年月:平成5年		
諸元	8,289㎡(小松島ステーションパーク全体:21,456㎡) 野外ステージ(舞台183.1㎡)、 人口滝(10m×32.55m) たぬきのブロンズ像(5m)、 たぬきめぐりコース(石像7体) 便所一ヶ所、 ひろばスペース(2,789.6㎡) 植栽(高木804本、低木3,931本) ほか		
施設写真	 <p>たぬき像</p>	 <p>たぬき広場</p>	
	 <p>たぬき広場</p>	 <p>たぬき広場からの図書館</p>	

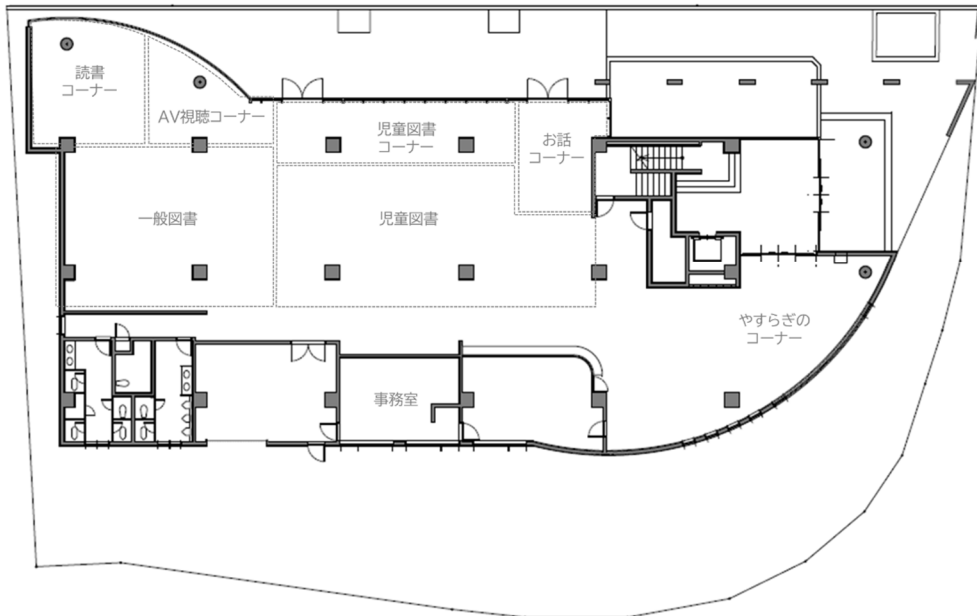
名称	生涯学習センター小松島市立図書館	
位置	徳島県小松島市小松島町字新港29-11	
建築年	竣工年月:平成4年2月14日	
諸元	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地面積:3,356㎡ ・延床面積:1,604.84㎡ ・建物構造:鉄筋コンクリート造 ・建物階数:3階建 	
施設写真	 <p style="text-align: center;">外観</p>  <p style="text-align: center;">入口エントランス</p>  <p style="text-align: center;">児童図書コーナー</p>  <p style="text-align: center;">おはなしコーナー</p>	 <p style="text-align: center;">外観</p>  <p style="text-align: center;">やすらぎのコーナー</p>  <p style="text-align: center;">読書コーナー</p>  <p style="text-align: center;">アイデアの泉</p>

レイアウト



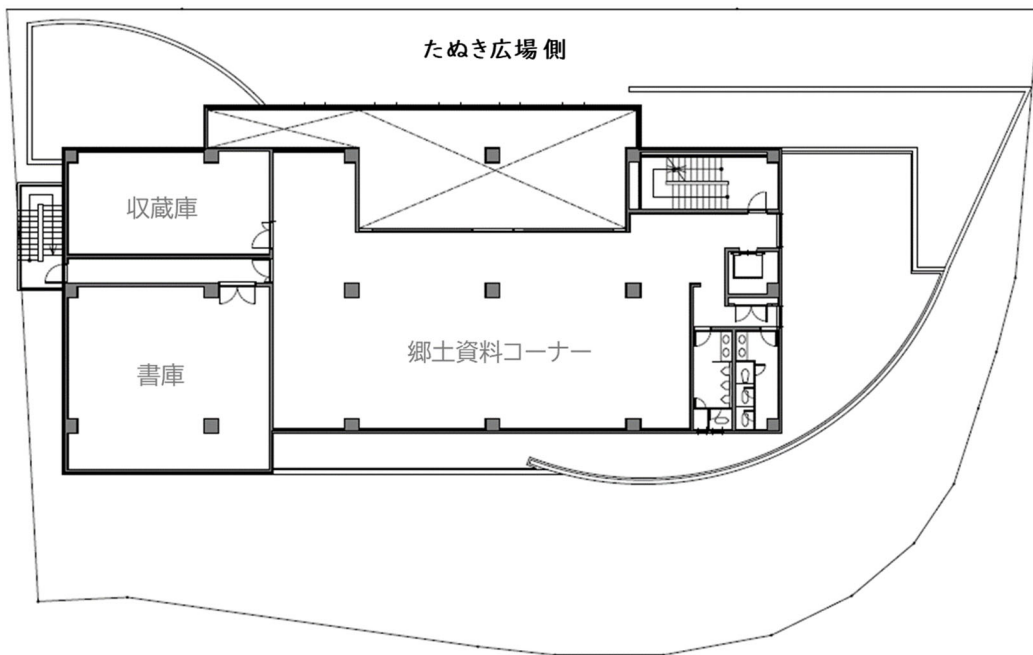
たぬき広場側

1F

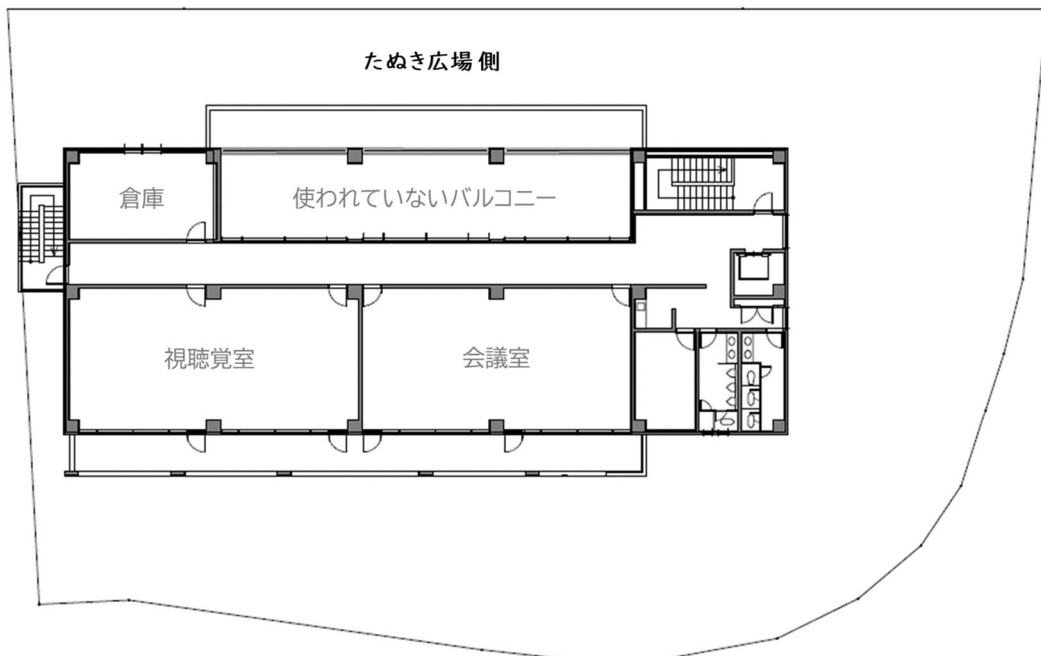


レイアウト

2F



3F



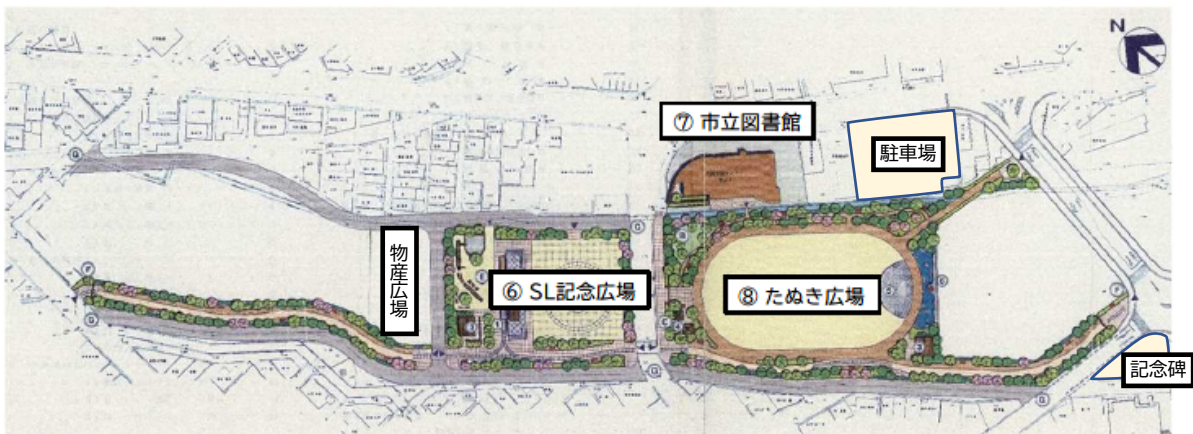
2-2. 周辺地域における計画対象地の位置づけ

(1) 計画対象地の現状

小松島ステーションパークは、図書館、たぬき広場、SL記念広場やそれらを取り囲むプロムナードによって構成されています。平成4年の竣工から約30年経ち、補修や改修が必要な時期を迎えています。

⑥～⑧ 小松島ステーションパーク

日本で一番短い国鉄路線であった小松島線の駅跡地に作られた公園で、平成6年度 手づくり郷土賞(ふるさとの文化を育む街角の広場)を受賞しています。



⑥ SL記念広場

国鉄小松島線・小松島駅開業当時の駅舎が再現され、本物の蒸気機関車が展示された、歴史ある姿を現代に伝える、憩いのホームとなっています。



⑦ 市立図書館

子育て支援コーナーのほか、「たぬきコーナー」「海コーナー」など、地域の文化にまつわる図書コーナーが設けられています。



⑧ たぬき広場

金長たぬき伝説になぞらえた、たぬきの像が点在し、手をたたくと水が流れる世界一大きなたぬきの像がシンボルとなっています。

資料)本港地区及び中心市街地の活性化に向けた基本構想(小松島市)

2-3. 上位関連計画・各種関連情報の整理

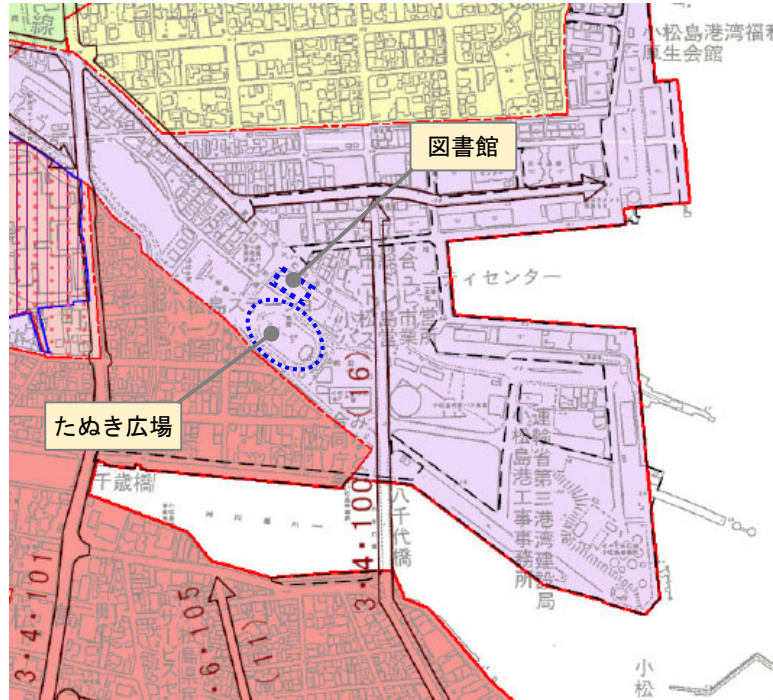
(1) 上位関連計画

分類	上位関連計画等	策定(改定)年月	概要
総合計画 関連	小松島市第6次総合計画 《後期基本計画》	令和4年3月	<p>○本港地区が一体となるような活性化を推進し、にぎわいの創出を図る。</p> <p>○中心市街地エリアでの地元経済への効果も踏まえ、にぎわい創出に向けて国・県と連携を深め取組を推進する。</p>
都市計画・まちづくり 関連	小松島市都市計画マスタープラン	令和5年 (策定予定)	○中心市街地につながる本港地区は、まちの特性である港の景観を活かし、うるおいと個性ある環境・景観づくりを進め、本港地区と中心部の交流・連携により、人の流れを活発にし、中心市街地の活性化を図る。
	本港地区及び中心市街地の活性化に向けた基本構想	令和5年 (策定予定)	<p>○「人々が集い 交流し にぎわいと憩いをつなぐ みなとまち ～新しいみなとまちを目指して～」という都市像を目指し、海に面した開放的な空間を活かし、イベントや音楽、スポーツなどあらゆる世代が様々な活動を楽しめるにぎわいのあるみなとまち、人々が安心して集える憩いのある場で活気と癒しが共存するみなとまちを目指している。</p> <p>○図書館、たぬき広場等のエリアは、明るく開放的な図書館と、子育て世代が集いやすい環境の広場を連携させ、大人も子どもも共存して楽しめる空間の創出をおこなう。</p>
教育 関連 計画	小松島市教育振興計画 (第3期)	令和4年2月	<p>○教育を通じて市民一人ひとりが郷土愛を育み、一緒により良い小松島を創りながら、人間性豊かに暮らせるまちづくりの実現を目指している。</p> <p>○知の拠点となる図書館については、市民の知的好奇心や探求心を高めるための機能の見直しとサービスの充実に取り組み、利用促進を図る。</p>

(2) 都市計画の状況

図書館並びにたぬき広場の用途地域は、準工業地域となっています。

(建ぺい率 60%、容積率 200%)



(3) 小松島ステーションパークの整備基本方針

図書館やたぬき広場のある小松島ステーションパークは、以下の整備基本方針が掲げられています。

■小松島ステーションパークの整備基本方針

- (1)小松島市の本港地区のシンボルとする。
- (2)各種イベントに利用できる広場として、市内外の人々に親しまれる場とする。
- (3)周辺地区住民の日常生活における憩いの場として、健康増進、休養等に利用できる場とする。
- (4)併設されるプロムナード(自転車歩行者専用道路)と一体的に整備し、通勤、通学、買物等の利用者に快適で安全な空間とする。
- (5)国鉄小松島港駅跡のメモリアルパークとして、小松島のシンボルである金長たぬきをモチーフとした個性豊かな公園とする。
- (6)四季折々に変化する季節感のある植栽により、周辺的生活環境及び都市計画の向上を図る。

(4) 小松島ステーションパークの改修計画(案)

整備後、約30年が経過しているたぬき広場は、施設の様々な箇所で見られます。そのため、以下の改修を予定しています。

■小松島ステーションパークの改修計画(案)

- ① たぬき像背面の人工滝構造の老朽化に伴う改修
- ② プロムナードの老朽化に伴う補修
- ③ SL 記念広場への遊具の再整備
- ④ たぬき広場と図書館の連続性向上
- ⑤ その他施設の老朽化対策

2-4. 基本構想に基づく計画条件の整理

(1) 将来像

図書館やたぬき広場のある本港地区では、まちづくりを考える上で、「人々が集い 交流し にぎわいと憩いをつなぐ みなとまち」を将来像として掲げ、海に面した開放的な空間を活かした、あらゆる世代が様々な活動を楽しむにぎわいのある新しいみなとまち、人々が安心して集える憩いのある場で、活気と癒しが共存する空間づくりを目指しています。

(2) 5つの戦略

将来像を実現するために、①「にぎわい・交流」、②「まちとの連携」、③「歴史・文化・観光」、④「オアシス」、⑤「サステイナブル」の5つの戦略を立てています。

戦略	主な内容
「にぎわい・交流」	・あらゆる世代が集えるにぎわいづくり ・回遊の仕掛けづくり
「まちとの連携」	・中心市街地のにぎわいにつながるウォークアブルな空間の形成
「歴史・文化・観光」	・歴史や文化を学びながら継承していく、施設整備や魅力ある空間の形成
「オアシス」	・来訪者が休憩・リフレッシュできる空間の形成
「サステイナブル」	・市民生活向上の好循環やカーボンニュートラルの実現に向けた取組み、持続可能なまちづくりの推進

(3) ゾーニング及びプロジェクト

基本構想において、図書館とたぬき広場は、学びのレクリエーションゾーンに位置し、憩いの場として位置づけられています。

まちづくりプロジェクトとして、明るく開放的な図書館を整備し利用者数を増やすとともに、子どもたちが遊びやすく子育て世代が集いやすい環境を整備する構想となっています。また、図書館とたぬき広場がつながることで、大人も子どもも共存して楽しめる空間を創出することがうたわれています。



2-5. 整備に向けた課題整理

■現状

図書館の蔵書数は、現在約 11.7 万冊となっています。貸出者数は、直近 9 ヶ月(R4.4~R4.12)で約 1.5 万人となっています。

若い世代の利用が少ないため、子育て世代の利用を促進することが効果的と考えられます。

<蔵書数>

(単位：冊)

分類	一般図書	児童図書	郷土資料	視聴覚	雑誌	合計
購入寄付件数	1,248	793	165	0	575	2,781
蔵書数	66,809	38,563	4,801	836	6,628	117,637

<貸出者数>

(令和4年4月~令和4年12月末現在)

月	貸出者数	登録者数	貸出し冊数				予約件数
			貸出冊数	うち市配本	うち児童書	うちAV	
合計	15,402	213	73,640	2,809	32,361	57	4,441

<年齢別の貸出人数>

(令和4年4月~令和4年12月末現在)

	6歳以下	7~9歳	10~12歳	13~15歳	16~18歳	19~22歳	23~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢なし	団体	仮登録	合計
男	130	250	110	57	26	59	55	179	394	344	1,358	2,260	0			5,222
女	186	174	192	94	23	37	274	805	1,816	1,533	1,809	2,304	0			9,247
無	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0
計	316	424	302	151	49	96	329	984	2,210	1,877	3,167	4,564	0	822	111	15,402

(1) 本港地区の魅力アップに寄与するための課題(公園とのつながり)

図書館の目の前にはためき広場があり、四季折々の景色を楽しむことができる樹木があるため、公園とのつながりを設ければ、図書館としての魅力は上がると考えられます。

公園利用者の方にも、気軽に図書館を利用できるような、公園から図書館へのつながりを求められています。

入口付近の「アイデアの泉」は飲用可能な湧水のため、水を汲みに来る人も多く、これらの隣接地の資源を活用した魅力向上が求められます。

(2) 施設面での課題

図書館は築 30 年が経過し、施設の老朽化が目立ってきているほか、閲覧スペースや図書配架スペースも少なく手狭になっています。

3階建ての建物のなかで、図書館スペースは1Fのワンフロアのみとなっており、各機能のゾーニングも曖昧です。2Fには郷土資料の展示コーナー、3Fには視聴覚室、空きスペース、公園に面したバルコニーなどがありますが、その有効な活用方法については再検討が必要です。

学生からの要望が多い学習コーナーも常設されておらず、市民のニーズに応えることができていません。また、読み聞かせコーナーなどの子どもに配慮した空間がないため、子連れでの利用を促すためには課題があります。

(3) 図書館およびたぬき広場の整備に関する個別課題

ワークショップや子育て世代の方、市議会等における主な市民の意見として、次のような意見が挙げられました。

分類	視点	現状、整備課題
	利用状況等	<ul style="list-style-type: none"> ・平日はお年寄りが多く、休日は親子が多い。若者がいない。 ・ベンチなどの休憩施設が少ない。(高齢者) ・子供の遊び場、遊具がない。 ・夕方、子どもが遊んでいない。 ・水くみ多い。(年4万人来ている) ・賑わい創出と子育て支援の2点で。 ・程よい田舎なのが子育てにもいい、若い世代も呼べるのでは。 ・高齢者が立ち寄りにくい雰囲気にならないよう、どんな世代も楽しめるエリアに。 ・たぬきをモチーフにしたまちづくり。 ・広場スペースの有効活用(SL 記念広場、物産広場)
管理運営	維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ・お金のかからない範囲で。(外構が特に朽ちやすいので)
施設性能	機能構成	<ul style="list-style-type: none"> ・しゃべれる図書館 ・一般の方の利用と子どもの利用を分ける。 ・1Fは飲食OKで、2, 3Fは×など。 ・たぬき広場からの入口も欲しい。 ・デッキと連続した解放感はカフェとかがあればアリ。 ・本がある場所でなく本を読むための場所にしては。
	施設外溝	<ul style="list-style-type: none"> ・たぬき広場と図書館が連続したものに。 ・たぬき広場からの入口も欲しい。 ・図書館の前面の木を利用したい。
	付帯設備	<ul style="list-style-type: none"> ・DX図書館。 ・図書館を明るく。 ・子供が楽しめるような仕掛け。 ・車いすできてそのまま入れる。 ・たぬき像で子が水遊びできると良い。 ・南側にベンチ欲しい。冬でもぬくい。 ・バルコニーに屋根つける。
立地環境	アクセス	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場からの導線。 ・しつらえ、受入態勢(駐車場)大事。
	周辺施設	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館から周辺まで誘導するような取り組み。

(4) 図書館の方針

図書館については、以下の2つの基本方針のもとに整備・運営を進めています。

■基本方針(1)

小松島市民の生涯学習の拠点としての機能を果たすため、市民のニーズに沿いながら図書の充実、資料の収集、整備に努める。

■基本方針(2)

ふるさとの町づくり、人づくりの視点から生涯学習の支援者としての機能を果たすため、創意工夫した運営に努める。

3. 施設改修の基本計画

3-1. 基本方針

(1) 基本コンセプト

図書館及びたぬき広場の施設改修については、整備に向けた課題や、市民の意見、図書館の運営方針などを踏まえ、本計画における基本コンセプトを次のとおり定めます。

訪れる人に癒しと憩いを提供し、未来につながる学びをつくる

(2) 基本目標

図書館及びたぬき広場の施設改修の基本目標は以下に定めます。

新・図書館 ～ツドエル～

多くの人々が癒しと憩い、遊びや学びを求めて集える場となる施設

- 基本目標1 アソベル 緑の公園と学びの施設が一体化した癒し空間の創造
緑に恵まれた立地を生かし、公園側へ広く開かれた空間を創造し、幅広い世代にとって居心地よく遊びと学びのある屋外空間を提供します。
- 基本目標2 シャベレル 子供の学びに寄与し、子育て世代にやさしい空間の創造
小さな頃からの読書体験は生涯の財産となることから、思い切ったゾーニングを行い、子ども連れでも利用しやすい空間を提供します。
- 基本目標3 マナベル 気軽に立ち寄り、ゆったりと過ごせる滞在型空間の創造
図書館は本を借りるだけではなく、本を読むところにもなるように、ゆとりのある閲覧スペースを設け、滞在型の学び空間を提供します。
- 基本目標4 スゴセル 人々が集まりにぎわう空間の創造
市民の多様な活動を支援する多目的ルームなど、誰もが利用しやすく、過ごしやすい新たなにぎわいや交流が生まれる空間を提供します。

3-2. 改修範囲

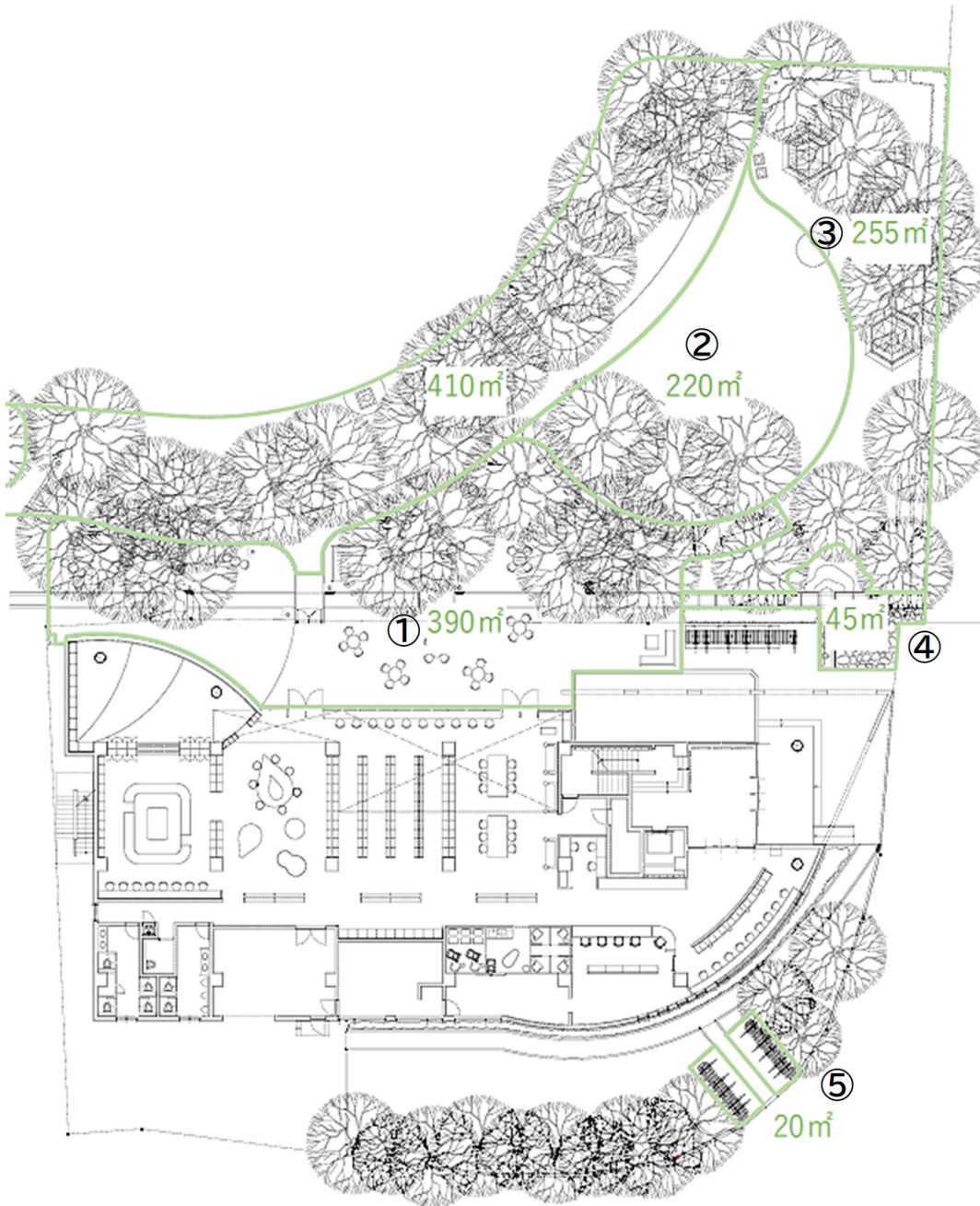
基本方針を基にした施設使用と空間構成イメージ(P23～26)から想定される改修範囲は以下の通りです。今後の事業手法検討において変更対応することがあります。

【たぬき広場と市立図書館】

場所	No.	新名称		既存場所の名称	面積			
外構 (ソバル)	①	アウトドア・テラス	390	m ²	たぬき広場内 母子像のエリア (図書館前の一角)	1340	m ²	
	②	プレイグラウンド	220	m ²				
	③	おはなしの森	255	m ²				
	④	親水広場	45	m ²				
	-	その他 (散策路・植栽帯・駐輪場)	410	m ²				
	⑤	新設駐輪場	20	m ²	桜並木散策路			
小計					1340	m ²		
1F (シャベレル)	①	こども図書室	364	m ²	児童図書	128	364	m ²
		・児童図書(開架書架)			お話しコーナー	26		
		・閲覧スペース			児童図書閲覧コーナー	40		
		・おはなしコーナー			一般図書	102		
		・スタディコーナー			AV視聴コーナー	13		
		・AV視聴コーナー			読書コーナー	55		
	②	情報掲示コーナー ・イベントや地域情報	75	m ²	エントランスホール	40	m ²	
					その他	35	m ²	
	③	エントランス・ロビー ・施設全体のエントランスロビー	29	m ²	やすらぎのコーナー	27	m ²	
	④	スタッフ事務室	56	m ²	その他	59	m ²	
⑤	ベビー・ルーム	21	m ²					
⑥	トイレ	38	m ²	トイレ	38	m ²		
⑦	EV・階段	28	m ²	EV・階段	28	m ²		
-	その他	52	m ²	その他	62	m ²		
小計					663	m ²		
2F (マナバル)	①	一般図書室	204	m ²	郷土資料室	217	m ²	
		・一般図書(開架書架)						
	②	スタッフ事務室	13	m ²				
	③	トイレ	22	m ²	トイレ	22	m ²	
	④	検索コーナー	23	m ²	EVホールの洗面台	23	m ²	
	⑤	EV・階段	25	m ²	EV・階段	25	m ²	
-	その他	7	m ²	その他	7	m ²		
小計					294	m ²		
3F (スゴセル)	①	自習スペース	98	m ²	生涯学習課	98	m ²	
	②	多目的ルーム	106	m ²	視聴覚室	106	m ²	
	③	コワーキング・スペース	34	m ²	倉庫	34	m ²	
	④	休憩スペース(屋内:廊下)	86	m ²	廊下	63	m ²	
	⑤	休憩スペース(屋外:バルコニー)	92	m ²	バルコニー	92	m ²	
	⑥	トイレ	22	m ²	化粧室	22	m ²	
	⑦	EV・階段	25	m ²	EV・階段	25	m ²	
	-	その他	14	m ²	その他	14	m ²	
小計					477	m ²		
合計					2,774	m ²		

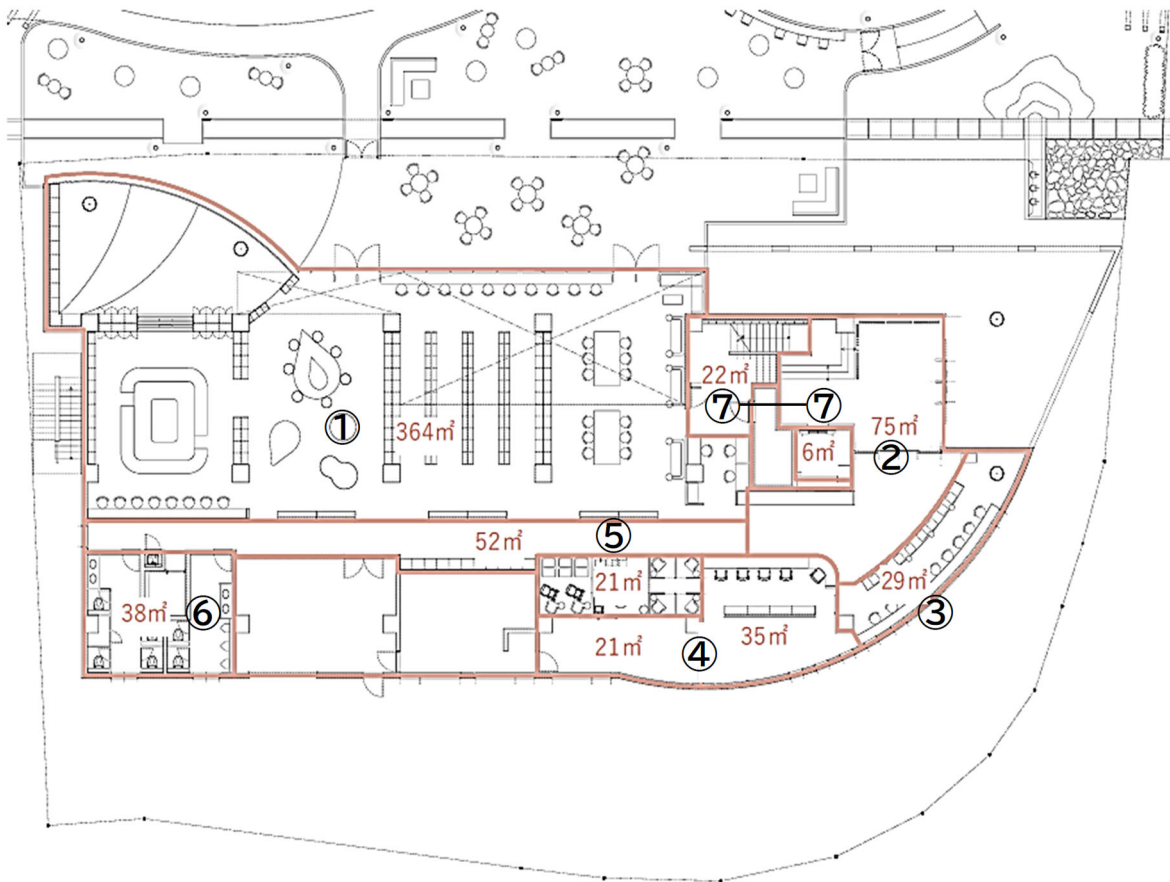
【外構(アソベル)】

場所	No.	新名称	面積	既存場所の名称	面積
（アソベル） 外構	①	アウトドア・テラス	390 m ²	たぬき広場内 母子像のエリア (図書館前の一角)	1340 m ²
	②	プレイグラウンド	220 m ²		
	③	おはなしの森	255 m ²		
	④	親水広場	45 m ²		
	-	その他 (散策路・植栽帯・駐輪場)	410 m ²		
	⑤	新設駐輪場	20 m ²	桜並木散策路	
				小計	1340 m ²



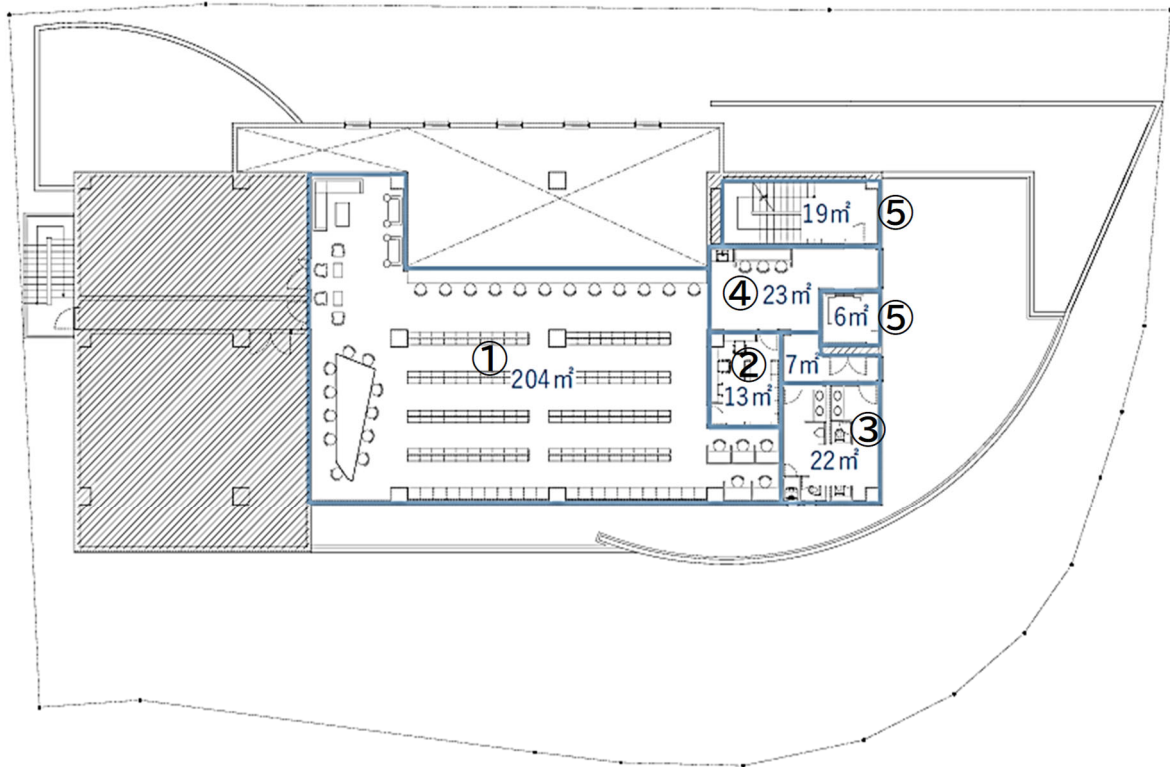
【1F(シャペレル)】

場所	No.	新名称	既存場所の名称	面積
1F (シャペレル)	①	こども図書室 ・児童図書(開架書架) ・閲覧スペース ・おはなしコーナー ・スタディコーナー ・AV視聴コーナー	児童図書	128
			お話しコーナー	26
			児童図書閲覧コーナー	40
			一般図書	102
			AV視聴コーナー	13
			読書コーナー	55
	②	情報掲示コーナー ・イベントや地域情報	エントランスホール	40
			その他	35
	③	エントランス・ロビー ・施設全体のエントランスロビー	やすらぎのコーナー	27
			その他	59
④	スタッフ事務室	56		
⑤	ベビー・ルーム	21		
⑥	トイレ	38		
⑦	EV・階段	28		
—	その他	52		
小計				663



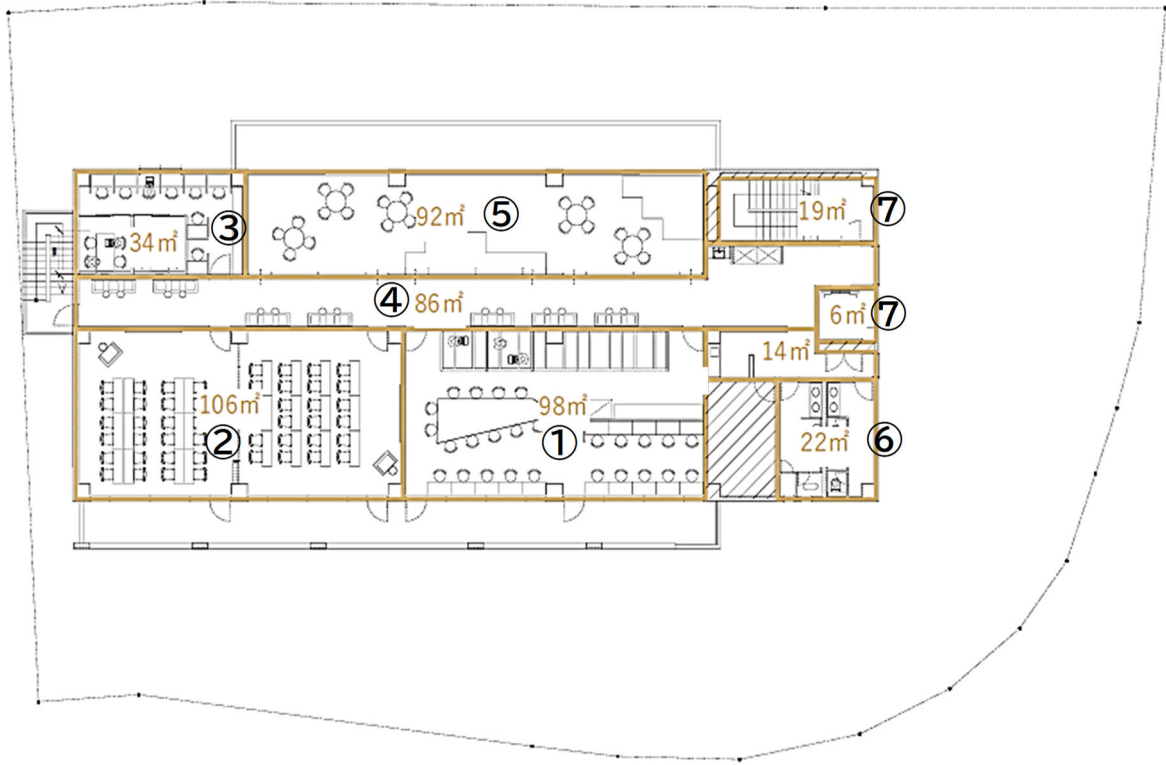
【2F(マナベル)】

場所	No.	新名称	場所	既存場所の名称	面積
2F (マナベル)	①	一般図書室 ・一般図書(開架書架) ・閲覧スペース ・情報コーナー ・AV視聴コーナー	204 m ²	郷土資料室	217 m ²
	②	スタッフ事務室	13 m ²		
	③	トイレ	22 m ²	トイレ	22 m ²
	④	検索コーナー	23 m ²	EVホールの洗面台	23 m ²
	⑤	EV・階段	25 m ²	EV・階段	25 m ²
	—	その他	7 m ²	その他	7 m ²
					小計



【3F(スゴセル)】

場所	No.	新名称		既存場所の名称	面積
3F (スゴセル)	①	自習スペース	98 m ²	生涯学習課	98 m ²
	②	多目的ルーム	106 m ²	視聴覚室	106 m ²
	③	コワーキング・スペース	34 m ²	倉庫	34 m ²
	④	休憩スペース(屋内:廊下)	86 m ²	廊下	63 m ²
	⑤	休憩スペース (屋外:バルコニー)	92 m ²	バルコニー	92 m ²
	⑥	トイレ	22 m ²	化粧室	22 m ²
	⑦	EV・階段	25 m ²	EV・階段	25 m ²
	-	その他	14 m ²	その他	14 m ²
				小計	477 m ²



3-3. アクセス・動線・管理範囲

(1) 駐車場

- ・北側:約15台
- ・東側:約48台(郵便局を挟んだ隣にあり)

(2) 鉄道

JR南小松島駅まで、約1kmで徒歩15分程度の距離にあります。

(3) 路線バス

最寄りバス停は、ステーションパーク前バス停で約100mの距離にあります。運行便数は、田浦線(上下6本/日)、目佐和田島線(上下5本)、小松島立江線(上下5本)で、合計16本/日の運行があり、JR南小松島駅から路線バスでアクセスすることができます。



(4) 動線

■「広場と図書館」の動線について

ためき広場の散策路3ヶ所、SL 記念広場側歩道1ヶ所の計4ヶ所から「アソベル」にアクセスできます。エリア導入部のアイコンとして、4ヶ所にエントランスゲート(視覚的にエリアを表現するもので閉じないオープンタイプ)を設置します。

散策路を「アソベル」内のメイン動線とし、動線上連続した場所に「プレイグラウンド」や「おはなしの森」を配置します。また、メイン動線の散策路から、図書館と一体的に計画されたアウトドア・テラスへ動線を連続させます。アウトドア・テラスから広場への動線は2方向へのアクセス計画とし、そのうち一方はプレイグラウンドへ連続させ、ユニバーサルデザインに配慮してスロープとします。

■「図書館内」の動線について

1F・2F の図書館スペースと3F の市民利用のスペース「スゴセル」は EV と階段で連続します。メイン動線となるこの2つの空間では利用者の往来が交差することが予想されるため、分かりやすいサイン計画を行います。

1F・2F にはそれぞれ、動線上出入口に最も近い場所にスタッフカウンターを配置します。1F「シャベル」からアウトドア・テラスへは2つの出入口でアクセスします。

(5) 管理範囲

【外構】

アウトドア・テラスはフェンスで囲い、管理範囲を明確に区切ります。管理ゲートを2ヶ所設置し、図書館開館時間をオープンとし、閉館時にはクローズします。

【1F】

アウトドア・テラスに連続したこども図書室の出入口2ヶ所は図書館開館時間をオープンとし、閉館時にはクローズします。図書の出出、貸出等の管理については要検討。

【2F】

一般図書室から他フロアや図書の出出、貸出等の管理については要検討。

【3F】

コワーキング・スペース／打合せブースの予約管理、使用料の設定・管理については要検討。

多目的ルームの予約管理、使用料の設定・管理については要検討。

休憩スペース(屋外バルコニー)の利用時間は図書館開館時間とし、閉館時にはクローズします。

3-4. 施設使用と空間構成イメージ

レイアウト

※写真・各階平面・ゾーニングイメージは参考図であり、今後の詳細検討において変更する可能性があります。

【たぬき広場と図書館】

全体構成

訪れる人に癒しと憩いを提供し、
未来につながる学びをつくる

新・図書館

～ツドエル～

外構(広場とアウトドア・テラス)

～アソベル～

こどもが遊べるだけでなく、大人にとっても居心地よく『あそびのある屋外空間』をつくります。

図書館1F(こども図書)

～シャベレル～

こどものための『しゃべれる図書室』をつくります。閲覧用のテーブル席やスタディコーナーだけでなくゴロゴロコーナーやおはなしコーナー等、自由なスタイルを選んで図書とふれあえるユニークな場所を設けます。

図書館2F(一般図書)

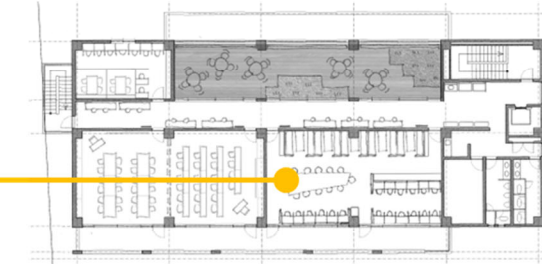
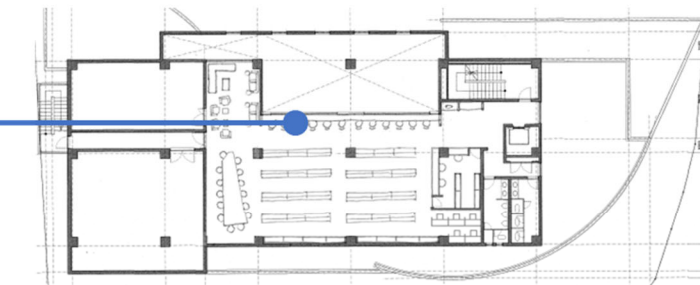
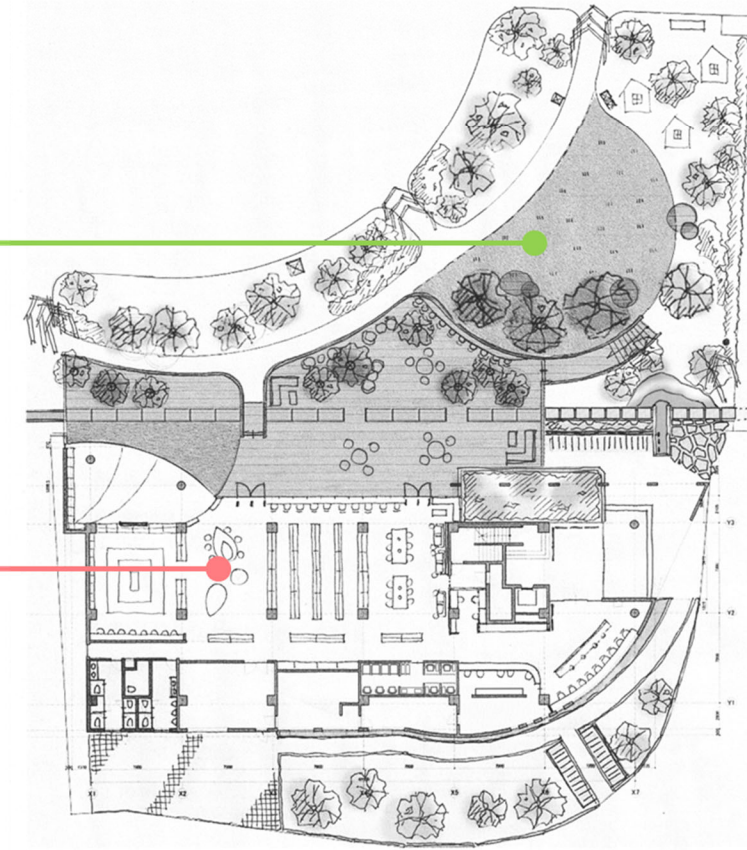
～マナベル～

学生やおとな向けの『まなべる図書室』をつくります。カウンター席やテーブル席、ソファ席等、複数のスタイルを選べる、落ち着きとゆとりの閲覧スペースを設けます。

図書館3F

～スゴセル～

市民が多目的に利用できるマルチスペースやスタディ室、コワーキングスペースを設け、人々が『すごしやすい』空間をつくります。バルコニーも憩いの場として開放します。



レイアウト

※写真・各階平面・ゾーニングイメージは参考図であり、今後の詳細検討において変更する可能性があります。

【図書館前／ためき広場との連続】

ZONING PLAN 外構 ~アソベル~

PLAY GROUND

■プレイグラウンド

芝生(または人工芝)広場・こどもの遊びの場
※グランドカバーは今後の維持管理方針によって決定する

STORY FOREST

■おはなしの森

- ・小屋型東屋の配置
- ・こどもの想像力を育む憩いの場
- ・紙芝居や読み聞かせ等、屋外でのイベントやアクティビティにも利用

WATER SQUARE

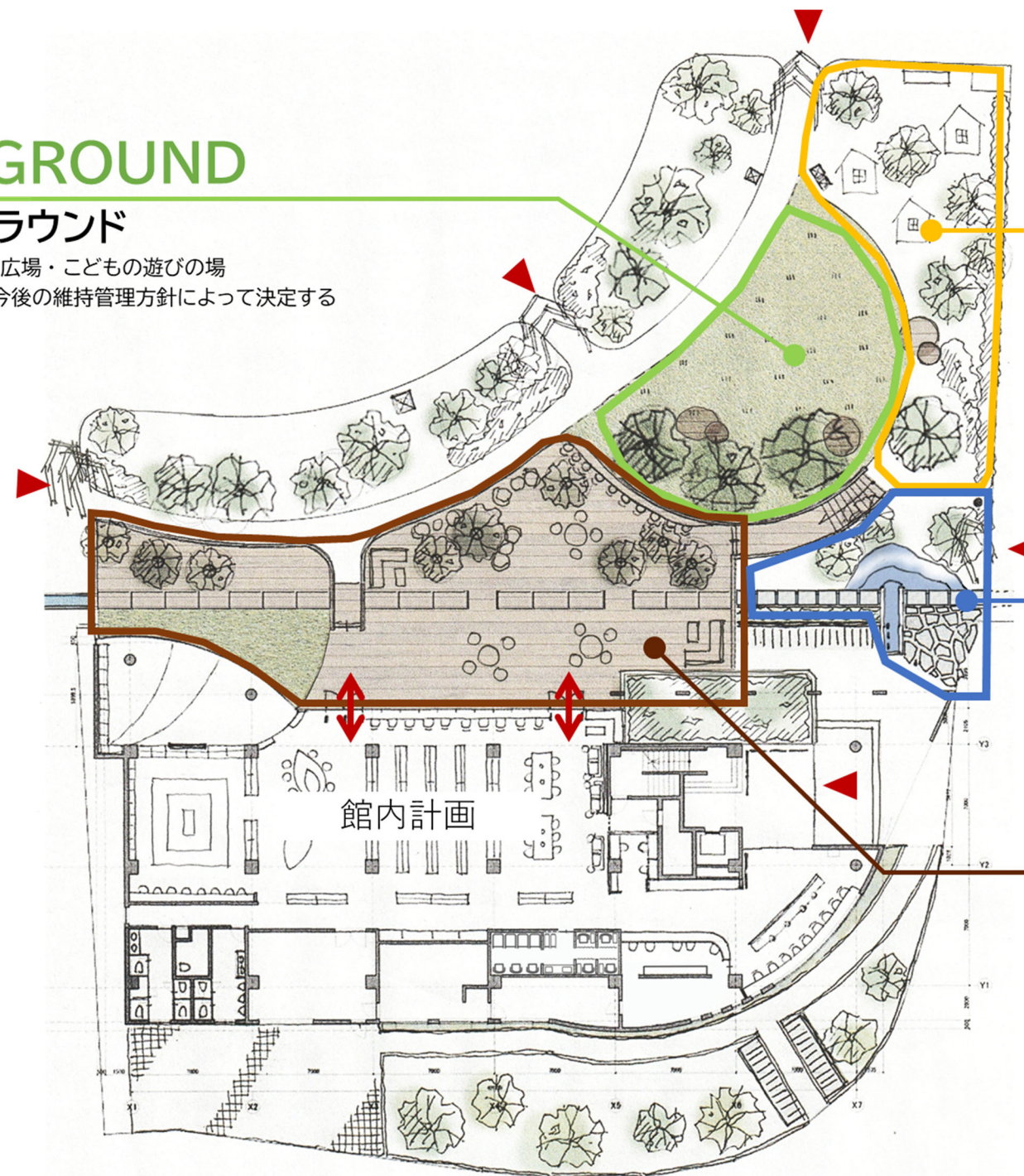
■親水広場

- ・こどもの水遊び場
- ・名水を汲むことができる市民の水場

OUTDOOR TERRACE

■アウトドア・テラス

- ・パブリック・リビングとしてのオープンテラスエリア
(ソファ席/テーブル席/カウンター席)
 - ・ピクニックが出来る人工芝エリア
 - ・飲食可能エリア
- ※図書館の営業時間に準じて開放する等
開放時間とエリア、図書の出出しは要検討



レイアウト

※写真・各階平面・ゾーニングイメージは参考図であり、今後の詳細検討において変更する可能性があります。

【図書館】

ZONING PLAN 1F ~シャベレル~

KID's Library

■こども図書室

- ・児童図書・開架書架
- ・閲覧スペース(テーブル席/ソファ席)
- ・自由なリーディングスペース(フリースタイル)
- ・おはなしコーナー(モニター/階段席/造作家具)
- ・スタディコーナー(カウンター席)
- ・AV視聴コーナー

INFORMATION

■情報掲示コーナー

- ・イベントや地域の情報掲示コーナー
- ・新刊紹介や特集コーナー 等

Entrance Lobby

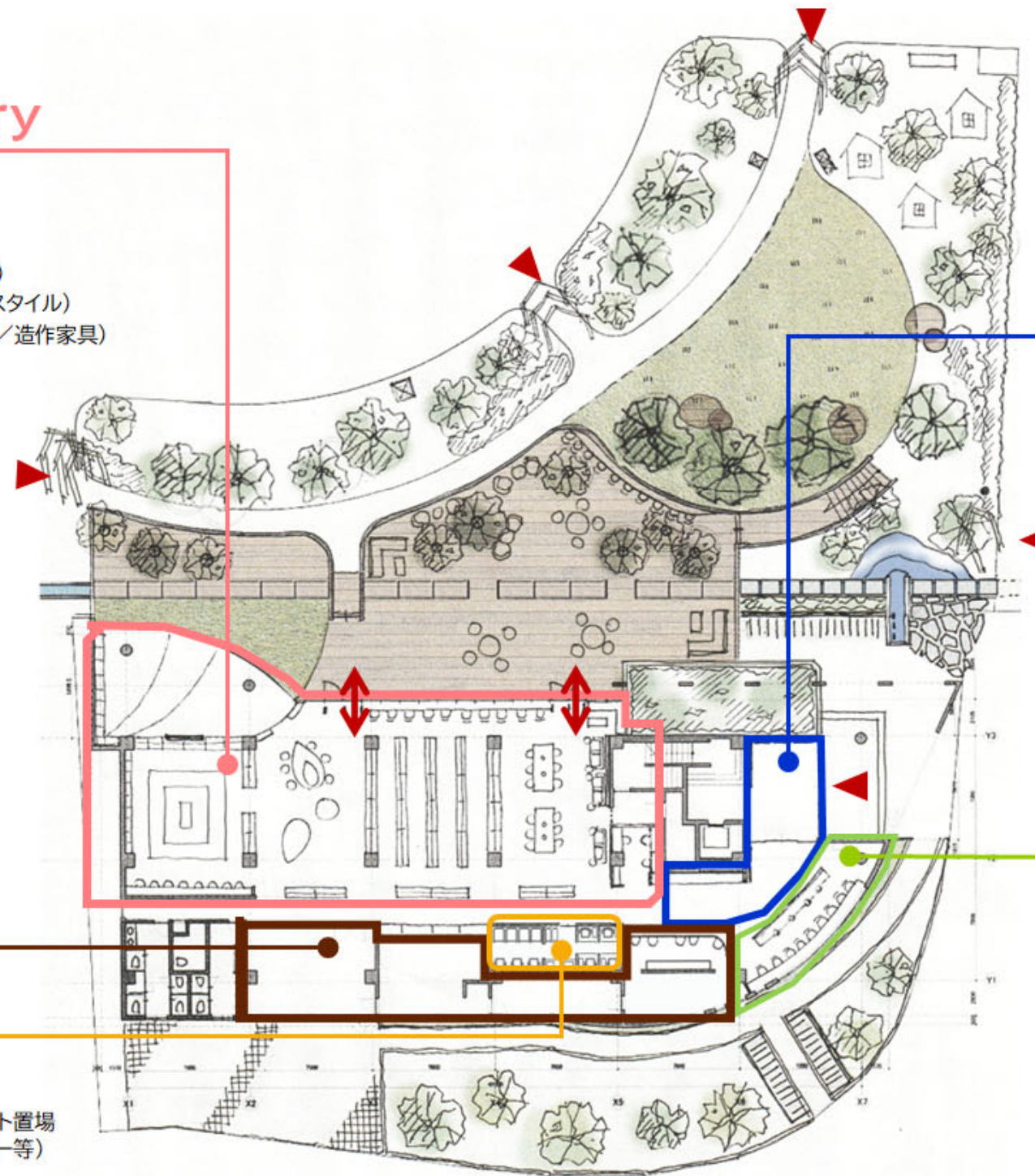
■エントランス・ロビー

- ・施設全体のエントランス・ロビー
- ・待合に利用できるフリースペース
(カウンター席/テーブル付きベンチ席)

スタッフ事務室

ベビー・ルーム

女性専用の授乳室を含む、
パパ・ママのためのベビー・ルーム。
(授乳室/おむつ台/待合席/カート置場
流し台/ゴミ箱/ウォーターサーバー等)

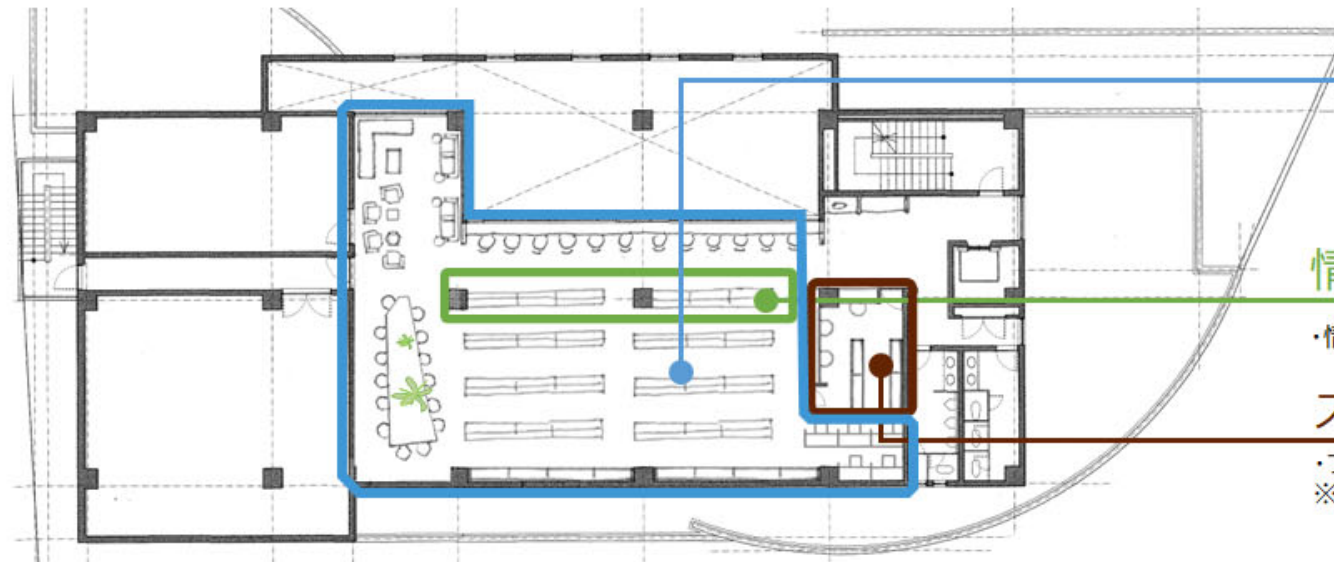


レイアウト

※写真・各階平面・ゾーニングイメージは参考図であり、今後の詳細検討において変更する可能性があります。

【図書館】

ZONING PLAN 2F ~マナベル~



LIBRARY

■一般図書室

- ・一般図書／書架
- ・閲覧スペース(テーブル席／ソファ席／カウンター席)
- ・AV視聴コーナー

情報コーナー

- ・情報コーナー(新刊、特集紹介等「魅せる」掲示コーナー)

スタッフ事務室

- ・フロア管理、貸出コーナー等
- ※図書の管理方針による

ZONING PLAN 3F ~スゴセル~

Co-working

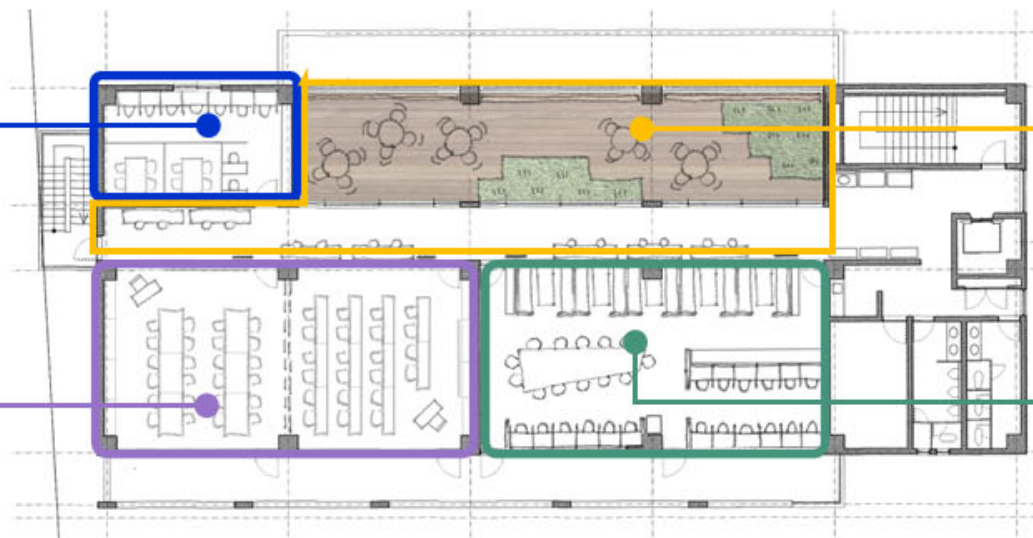
■コワーキング・スペース

- ・フリーWi-Fiや電源が利用できる
- ・個別ブース・ボックス席(会話可)
- ・サービスカウンター

Multi Room

■多目的ルーム

- ・相談や打合せ、会議や講義、ワークショップ等幅広く利用できる
- ・大ルームを可動間仕切りで分割利用可能



Balcony Terrace

■休憩スペース(バルコニー／廊下)

- ・屋外バルコニー:
デッキと人工芝で整備しテーブル席を配置
- ・屋内廊下: テーブル付きソファを配置

Study Room

■自習スペース

- ・フリーWi-Fiや電源が利用できる
- ・個別ブース・テーブル席・ボックス席
- ・サービスカウンター

■イメージパース(完成形というわけではありません。)



3-5. 利用者の想定

(1) 利用者層と収容人数

基本方針を基にした施設使用と空間構成イメージ(P23～26)から想定される利用者層ならびに収容人数は以下のとおりです。今後の事業手法検討において変更対応することがあります。

◆利用者層の定義

全世代 … 乳幼児から高齢者まで	子育て世代 … 乳幼児や就学児童とその親世代
乳幼児 … 0歳～小学校就学前のこども	就学児童 … 小学校に就学する児童
ヤングアダルト … 中学生・高校生	成人 … 18歳～64歳
高齢者 … 65歳～	その他：成人－学生 / 成人－社会人

場所	新名称	床面積	席数	収容人数	設定利用者層
(アソベル) 外構	アウトドア・テラス	390 m ²	56 席	約56～130人	全世代
	プレイグラウンド	220 m ²	— 席	約70人	子育て世代中心
	おはなしの森	255 m ²	18 席	約18～85人	高齢者 ※乳幼児・就学児童を伴う
	親水広場	45 m ²	— 席	15人	祖父母
	駐輪場(既存+新設)		30+36 台	66(台)	—
(シャベル) 1F	こども図書室 ・児童図書(開架書架) ・閲覧スペース ・おはなしコーナー ・スタディコーナー ・AV視聴コーナー	364 m ²	54 席	約120人 ～210人	子育て世代 高齢者 ※乳幼児・就学児童を伴う 祖父母
	情報掲示コーナー ・イベントや地域情報	75 m ²	— 席	約25～38人	全世代
	エントランス・ロビー ・施設全体のエントランスロビー ・フリースペース	29 m ²	17 席	約17人	全世代
	ベビー・ルーム	21 m ²	11 席	約12人	※乳幼児の保護者の利用
(マナベル) 2F	一般図書室 ・一般図書(開架書架) ・閲覧スペース ・情報コーナー	204 m ²	41 席	約70～120人	ヤングアダルト 成人(学生・社会人) 高齢者
(スゴセル) 3F	自習スペース	98 m ²	47 席	47人	ヤングアダルト 成人(学生・社会人) 高齢者
	多目的ルーム	106 m ²	50 席	50人	全世代
	コワーキング・スペース	34 m ²	12 席	12人	
	休憩スペース(屋内廊下)	81 m ²	21 席	約30人	
	休憩スペース(屋外バルコニー)	92 m ²	20 席	約20～30人	

3-6. 整備水準

基本方針を基にした施設使用と空間構成イメージ(P23～26)から想定される整備水準は以下の通りです。今後の事業手法検討において変更対応することがあります。

また、基本設計・実施設計を進めていくにあたっては、下記水準を基本とし、施設整備の目的を効率的・効果的に達成するための具体的な検討を進めていきます。

(1) 施設全体の基本的事項

【ためき広場と市立図書館】

ためき広場と市立図書館	基本的事項	分野	主な機能	整備水準・仕様イメージ
		ユニバーサルデザイン	誰もが快適で利用しやすい施設	・年齢、性別、身体的な特徴などにかかわらず快適に利用できる、ユニバーサルデザインを検討します。
わかりやすい案内	・誰にとっても諸室の配置が分かりやすい案内表示(点字や音声案内含む)を行い、使いやすい施設を目指します。			
エネルギー・環境負荷低減	省エネルギー	・気密性や断熱性に配慮し、空調機器の効率を高める建物を目指します。		
	自然エネルギーの活用	・自然エネルギーを積極的に活用し、環境にやさしい施設づくりを行います。		
	周辺環境との調和	・隣接するためき広場など、周辺の緑や景観との調和に留意し、既存樹木を可能な限り保全活用する計画とします。		
ライフサイクルコスト	建設コストの縮減	・既存の構造躯体はさわらずに改修を行うなど、活用できる既存の施設を積極的に利用します。		
	維持管理コストの縮減	・メンテナンス回数が少なく、メンテナンス費用の安価な手法を検討します。 ・汎用性、メンテナンス性に配慮し、今後の修繕時のコスト縮減にも配慮します。		
	ライフサイクルコスト	・建設時の初期コスト、維持管理のランニングコストを合わせたトータルでコスト管理を行います。		

(2) 主な機能と整備水準・仕様イメージ

施設用途	名称	主な機能	整備水準・仕様イメージ
ためき広場 (アソベル)	アウトドア・テラス	・屋外読書・閲覧スペース ・屋外くつろぎスペース など	・子ども図書室への出入り口で連続した一体的な空間とします。 ・隣接したためき広場の既存樹を活かし、ウッドデッキを連続させることで自然との調和を図ります。
	プレイグラウンド・おはなしの森	・こどもの遊び場 ・子育て世代の交流スペース など	・子どもが自由に遊べる安全で日当たりのよいスペースとします。
	親水広場	・子どもの水遊び場 ・市民の水汲みと憩いの場 など	・湧き水のある環境を有効活用し、子どもが楽しめる安全な水遊び場を設けます。
ためき広場と市立図書館 (シャベレル)	1F 1 子ども図書室	・児童図書配架 ・読み聞かせコーナー ・読書・閲覧スペース など	・こどもに特化した図書室としてわかりやすいレイアウトに配慮します。 ・アウトドア・テラスへの出入り口で連続した一体的な空間とします。 ・明るく快適な閲覧スペースを設けます。
	1F 2 情報掲示コーナー	・展示スペース ・お知らせスペース など	・図書館の導入空間として情報発信ができるスペースとします。
	1F 3 エントランス・ロビー	・市民の交流スペース ・待合スペース など	・来館者の入りやすさと居心地のよさを兼ね備えた空間とします。
	1F 4 スタッフ事務室	・来館者対応 ・事務スペース など	・セキュリティに配慮し、来館者が見える位置とします。
	1F 5 ベビー・ルーム		・授乳コーナーやおむつ台などを設置します。
	1F 6 トイレ		・清潔で明るく使いやすいトイレにします。 ・子ども用トイレを設置します。
	ためき広場と市立図書館 (マナベレル)	2F 1 一般図書室	・一般図書配架・雑誌 ・読書・閲覧スペース など
2F 2 スタッフ事務室		・来館者対応 ・事務スペース など	・セキュリティに配慮し、来館者が見える位置とします。
2F 3 トイレ		・一般トイレ(男性用・女性用)	・清潔で明るく使いやすいトイレにします。
ためき広場と市立図書館 (スゴセル)	3F 1 自習スペース	学生や社会人、高齢者等の利用を想定した自習スペース など	・会話を控え集中する空間として個別の自習席等を配置します。
	3F 2 コワーキング・スペース	・個別ワークスペース ・個別打合せスペース など	・様々な用途に活用できるようゾーニングを行います。
	3F 3 多目的ルーム	・会議、ワークショップなど	・可動式の間仕切りなどを活用しフレキシブルな利用を可能とします。
	3F 4 休憩スペース(屋内廊下) (屋外バルコニー)	・休憩スペース ・飲食可能スペース など	・安全に配慮し、施設利用者の休憩スペースとして有効活用します。
	3F 5 トイレ	・一般トイレ(男性用・女性用)	・清潔で明るく使いやすいトイレにします。

3-7. 管理運営の方針

リニューアル後の図書館は外観・館内レイアウトの改修以外、運営について次のように変革します。

(1) 運営方針

① 開館時間の延長

現在の開館時間は午前9時30分から午後6時までですが、仕事帰りに立ち寄ることが出来るように、開館時間の延長を検討します。

② 蔵書管理

蔵書にICチップを取り付け、カウンターを通さなくても貸出可能な自動貸出機による手続きをおこないます。

また、ICチップによる管理により、館内およびためき広場に面したテラスまでの範囲では、図書を貸出し手続きなしで自由に持ち運ぶことが出来ます。

③ 飲食

これまで図書館内は飲食禁止でしたが、1・2階では飲み物(ペットボトル・水筒などフタつきのものに限る)の利用を可能とし、3階は飲食可能とします。パーク PFI などを活用し、敷地内にカフェなど目的地となるような集客施設の誘致も検討します。

④ 図書資料の収集方針

これまで、港湾都市にちなんだ「海の本」や金長ためき伝説にちなんだ「ためきの本」など地域文化に特化したコーナー展示をおこなっています。今後も収集方針を検討し、特色ある蔵書収集をおこないます。

⑤ レファレンスの強化

郷土資料の検索など、市民の多様なニーズに応じることができるよう、職員の自己研修を推進しレファレンスの強化を図ります。

(2) 運営の考え方

現在、正規職員2名と会計年度任用職員8名(館長・管理人、司書6名)で運営しています。今後は、指定管理者制度など民間のノウハウを活用した運営を検討していく必要があります。

4. 事業について

4-1. 事業手法・事業スケジュール

(1) PPP/PFI 手法を活用した実現化方策の検討

自治体が設置する施設の運営形態には、一般的に、自治体が自ら運営する「直営方式」と、民間事業者等を指定管理者として権限を与え、管理運営を行わせる「指定管理者方式」、SPC(特定目的会社)が運営する「PFI事業方式」などがあります。

当施設の運営形態の検討にあたっては、施設整備や管理運営面において、民間ノウハウを活かした高水準のサービスが提供できるよう、民間企業が参画しやすい機会の提供に努めます。

(2) 事業手法の決定

新施設を整備・維持管理する事業の事業手法としては、「公設公営」、「公設民営」及び「民設民営」に整理されます。各手法の概要は表1のとおりです。

表1 事業手法の整理

手法	事業方式	資金 調達	設計・ 建設	運営・ 維持 管理	施設の所有		
					運営中	事業 終了後	
従来手法	公設公営方式	公共	公共	公共	公共	公共	
PPP 手法	公設民営方式	公共	公共	民間	公共	公共	
	PFI 的 手法	DB 方式 (Design-Build)	公共	民間	公共	公共	公共
		DBO 方式 ※1 (Design-Build-Operate)	公共	民間	民間	公共	公共
	PFI 手法 ※2	BTO 方式 ※3 (Build-Transfer-Operate)	民間	民間	民間	公共	公共
BOT 方式 ※4 (Build-Operate-Transfer)		民間	民間	民間	民間	公共	

PPP (Public Private Partnership)

公共と民間が連携し、公共サービスを行うことの総称。(官民連携、公民連携)

公共施設等の設計、建設、維持管理、運営等を行政と民間が連携して行うことにより、民間の創意工夫等を活用し、財政資金の効率的な使用や行政の効率化を図るもの。PPP の中には、PFI の他、指定管理者制度、公設民営 (DBO) 方式、包括的民間委託等も含まれる。PFI とは PFI 法に基づき、公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う手法。

※1：設計 (Design)、建設 (Build)、運営 (Operate) を一括して 民間事業者 に委ねる方式。資金調達、施設の所有は公共が行う。

※2：「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」いわゆる P F I 法に基づいて実施される事業であり、施設の設計、建設、維持管理・運営を包括・長期契約にて、民間事業者 に委ねる方式で、建設費等の初期投資額を民間資金で調達する方式。

※3：民間事業者が施設を建設 (Build) し、施設完成直後に施設の所有権を公共に移転 (Transfer) し、民間事業者が維持管理・運営 (Operate) を行う方式。

※4：民間事業者が施設を建設 (Build)、維持管理・運営 (Operate) し、事業終了後に施設の所有権を公共に移転 (Transfer) する方式。

当施設の具体的な事業手法については、表 1 に示す ①公設公営方式(市直営方式)、②公設民営方式(指定管理者方式)、③PFI手法(PFI事業方式)を比較検討するため、令和 5 年度には、これらについての調査・検討を行い、最も効率的な事業手法を選択します。

(1)①公設公営方式(市直営方式)及び②公設民営方式(指定管理者方式)の場合

図書館改修の基本計画を策定した後、基本設計、実施設計を行って、工事着工を目指すこととなります。この場合、設計・建設に着手したのちの4年目にはリニューアルオープンすることが出来ますが、補助金等を使用したうえでも市の財政負担は大きくなります。

(2)③PFI手法(PFI事業方式、パークPFI含む)の場合

図書館改修の基本計画を策定した後、事前に導入可能性調査などを行うため、完成は上記(1)より期間を要することとなりますが、民間事業者の経営上のノウハウや技術的能力を活用でき、また、事業全体のリスク管理(*)が効率的に行われることや、設計・建設・維持管理・運営の全部又は一部を一体的に扱うことによる事業コストの削減が期待できます。

※リスク管理

事業を進めていく上では、事故、需要の変動、物価や金利の変動等の経済状況の変化、計画の変更、天災等さまざまな予測できない事態により損失等が発生するおそれ(リスク)がある。PFI では、これらのリスクを最もよく管理できる者がそのリスクを負担する事となる。

表 2 事業スケジュール(想定)

項目	R4	1年目 (R5)	2年目 (R6)	3年目 (R7)	4年目 (R8)
事業発案、 準備・調査	基本構想・ 基本計画				
設計・建設の 実施		事業手法の調査・検討、基本設計・実施設計・建設			

4-2. 改修基本計画内容に基づく概算工事費

改修に関する概算工事費を以下に見積ります。

【たぬき広場と市立図書館】

項目	対象場所	面積	金額(円)	備考
外構工事費	アウトドア・テラス	390 m ²	62,500 / m ² ※改修範囲面積平均単価として	・テラス内固定造作家具は含み可動家具、備品は未算入 ・管理柵(フェンス)含む ・H鋼程度のエントランスゲートを含む ・母子像、たぬき像移設含む ・親水広場の「アイデアの泉」撤去費用は未算入、自然石護岸及び洗い出し、湧水口改修、既存撤去程度を含む ・小屋型東屋3基含む ・ガーデンライト18か所含む ・広場内張芝220m ² 、低木地被100m ² 程度、低木伐採等を含む ・デッキ上人工芝40m ² 含む ・エリア内散策路再舗装含む
	プレイグラウンド	220 m ²		
	おはなしの森	255 m ²		
	親水広場	45 m ²		
	新設駐輪場	20 m ²		
	その他(散策路・植栽帯他)	410 m ²		
	直接工事費概算 合計	1,340 m ²		
	諸経費	30 %	26,000,000	建築付帯工事として算出 (※土木工事の場合は70%に経费率増)
	経費込概算工事費 合計一①		110,000,000	
建築工事費(設備工事含む)	1F 改修対象範囲	663 m ²	270,000 / m ²	※躯体工事無しの改修として、新築工事の施工単価実績から躯体工事分30%減して算出したm ² 単価により試算
	2F 改修対象範囲	294 m ²		
	3F 改修対象範囲	385 m ²		
	改修対象範囲 面積小計	1,342 m ²		
	3F バルコニー改修	92 m ²	85,000 / m ²	・ウッドデッキ、人工芝(15m ²)を含み、照明、可動家具、備品は未算入
	電気設備工事(改修範囲全体)	1,434 m ²	108,000 / m ²	・給排水、空調換気、電気含む
	EV改修工事	— 式	21,000,000	・老朽化に伴う改修
	直接工事費概算 合計	— 式	547,000,000	
	諸経費	30 %	165,000,000	
経費込概算工事費 合計一②		712,000,000		
解体工事費	1F~3F 改修対象範囲	1,342 m ²	15,000 / m ²	・躯体の解体は不要とし、概ね内装のみの解体と考えた試算、3Fバルコニーは含まず。
	直接工事費概算 合計	— 式	21,000,000	
	諸経費	30 %	7,000,000	
	経費込概算工事費 合計一③		28,000,000	
概算工事費合計			850,000,000	

※現時点で、施設の移転費やその他試算することが困難な備品購入費等は未算入で含んでいないため、「実施設計」の段階でより詳細な工事費を算出すると共に、未算入項目を整理・積算し、加算する必要があります。

※2022年度実績で算定いたしております。現在、資材等が高騰しており、今後の社会情勢によっては、価格等に著しい変動が生じる場合があります。

5. 改修基本計画図

5-1. 基本計画—外構・たぬき広場と図書館の接続計画平面図

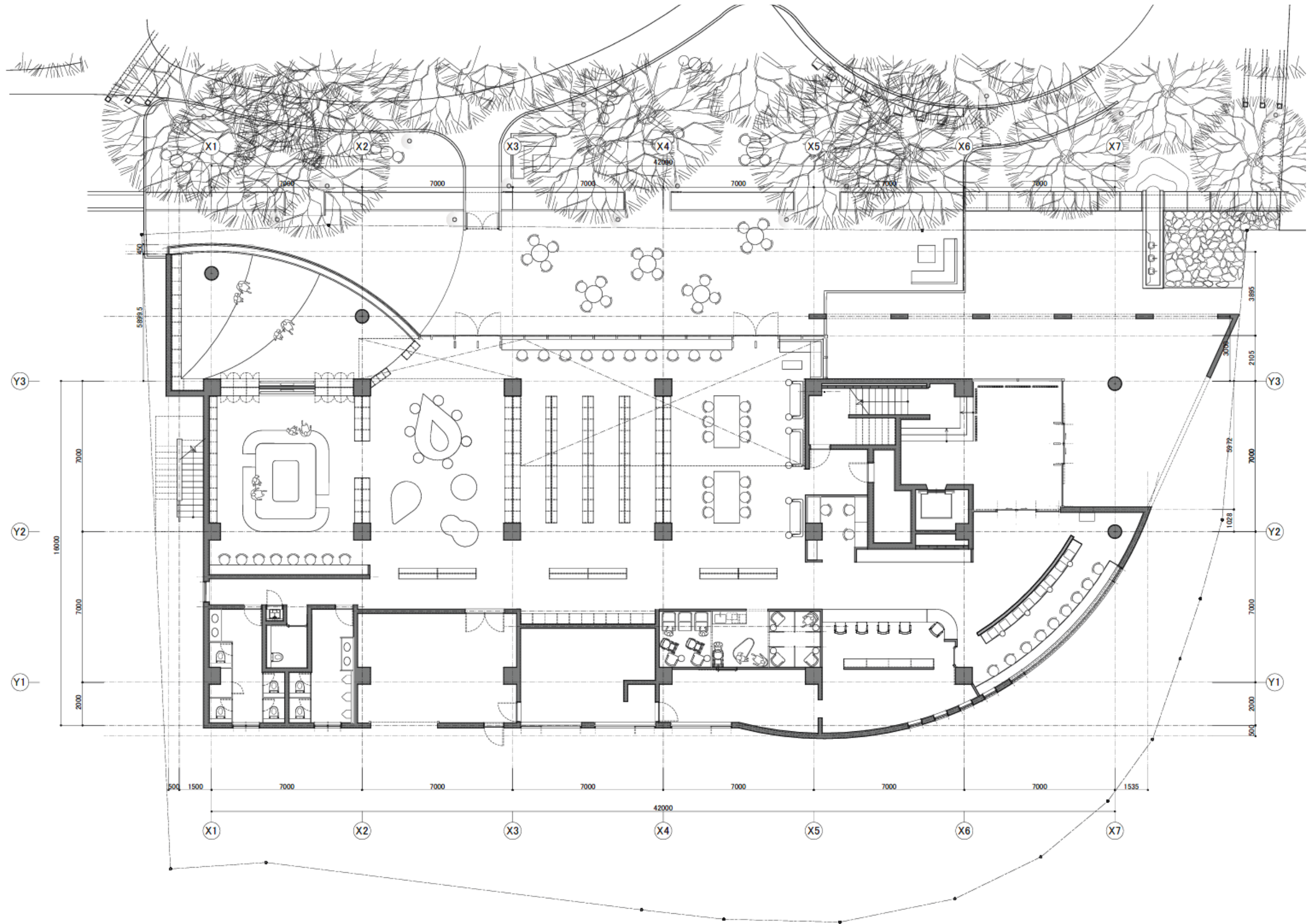


図書館 1F外構既存平面図 S=1/200(A3)

5-2. 基本計画-外構・ためき広場

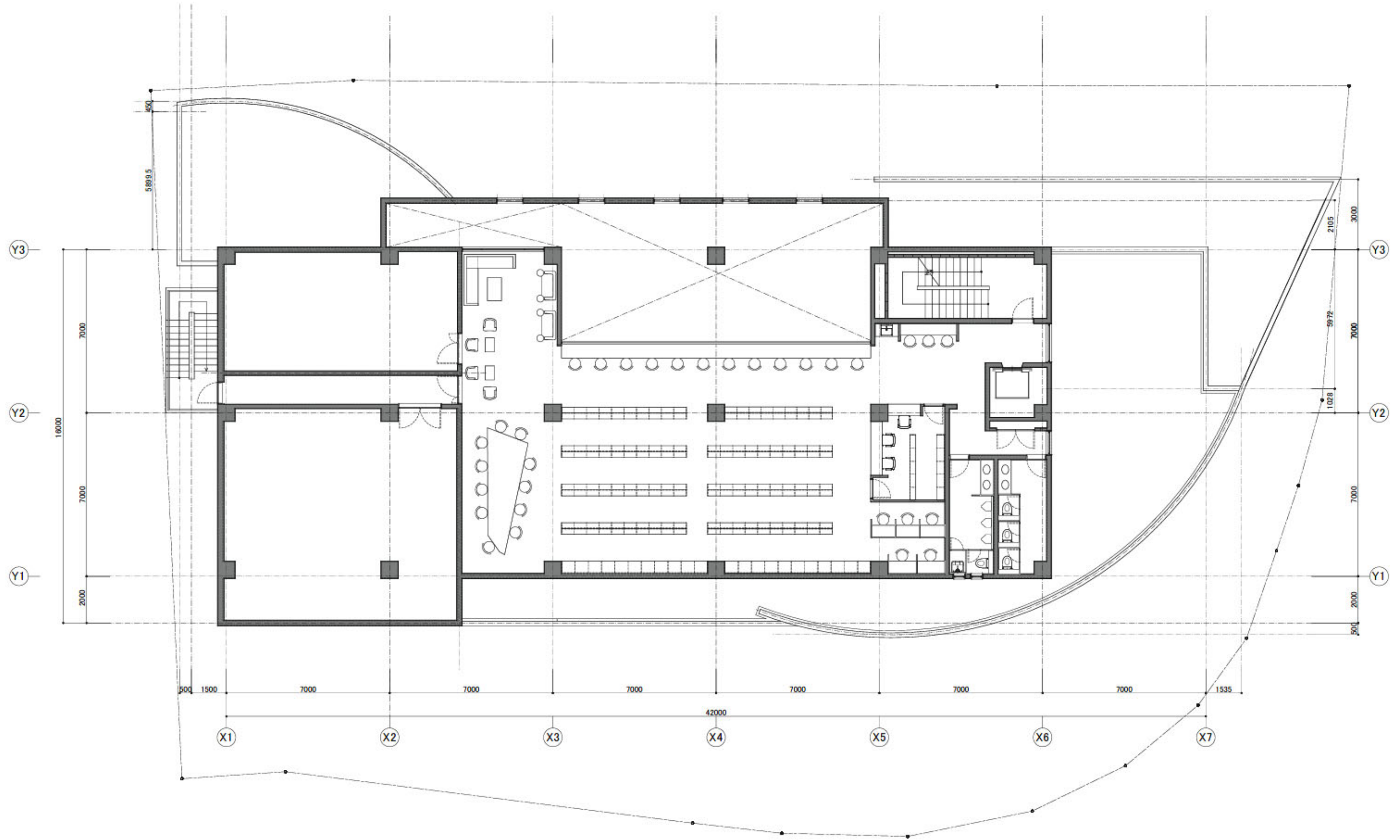


5-3. 基本計画—図書館1F平面図



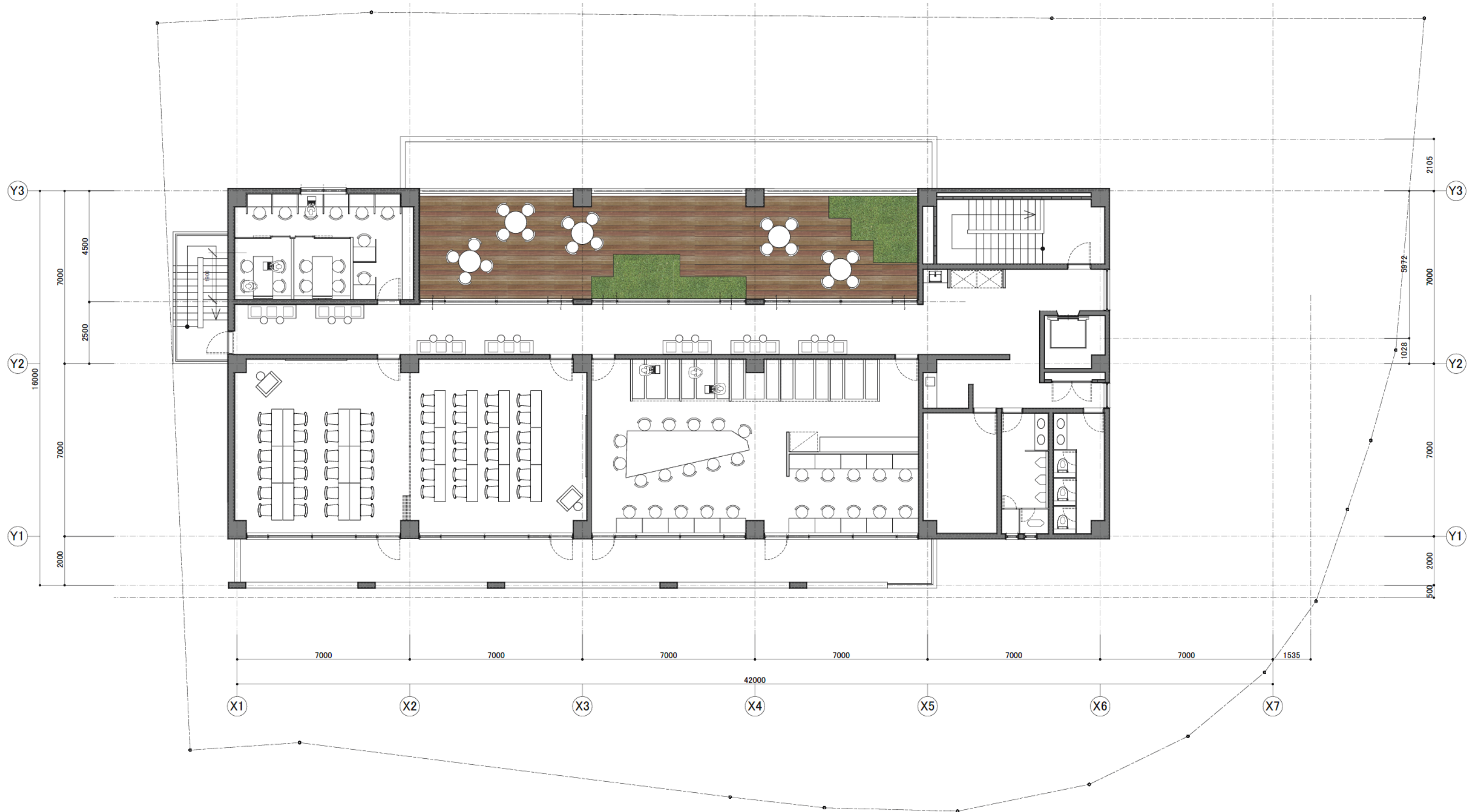
図書館 1F平面図 S=1/150(A3)

5-4. 基本計画—図書館2F平面図



図書館 2F平面図 S=1/150(A3)

5-5. 基本計画—図書館3F平面図



図書館 3F平面図 S=1/150(A3)

5-6. 基本計画－その他・補足説明資料

老朽化が進んだ電気設備、機械設備、衛生設備、建築物については、すべて全面交換し、現在と同程度以上の運用環境を確保でき、かつ費用対効果の高いものとなるように配慮します。
 タイル貼りや躯体あらわし仕上げとされたRC造の建屋については、耐用年数であることから、必要な小補修や全面クリーニングに留めます。アルミサッシのガラスについては、性能アップ(断熱・結露・遮熱等)に配慮し、省エネ対策を適切に講じます。

[耐用年数超過または老朽化が著しいものの代表例]

電気設備・機器	機械設備・機器	衛生設備・機器	建築物
照明設備 全般	空調設備 全般	トイレ機器 全般	剥離・ひび・浮き・汚れの著しいもの
幹線設備 全般	空調配管 全般	手洗器 全般	
弱電設備 全般	換気設備 全般	ミニキッチン	防水設備 全般
音響設備 全般	換気配管 全般	各種アクセサリ 全般	防水目地・パッキン 全般
各種配線類 全般	ダクト 全般	水栓類 全般	サッシガラス 全般
その他電気設備 全般	防災・消防設備 全般	各種給排水管 全般	外部金物等 全般
	その他機械設備 全般	その他衛生設備 全般	壁・天井ボード 全般
			壁仕上げ材 全般
			天井仕上げ材 全般
			床仕上げ材 全般
			内部建具 全般
			内部什器 全般
			ブラインド 全般
			トイレパーテーション
			各種内部アクセサリ
			内部金物等 全般
			各種サイン 全般
			エレベーター